

佐久大学からこんにちは

—地域と紡ぐヒューマンケア—

分科会詳細

佐久大学は、地域に根差し、地域発展に寄与することを目的に、「地域ケア」学ぶ保健・医療・福祉の総合大学として30年以上に渡り、多くの人材輩出を行ってきました。2020年からは新たに人間福祉学部も開設し、より多様な分野におけるヒューマンケアを実践できる人材育成をスタートしています。

複雑・多様化する地域課題に対応する高度な人材育成を行っていくためには、学びの基盤となる地域とのつながりが重要になります。信州の地で、地域と共に大学はどのようにヒューマンケアを担う人材を養成していくことが出来るのか、また求められるのかについて考え、研究・教育・実践の拠点である大学としてのこれからの地域とのつながり方について展望します。



上西 一貴

所属

佐久大学 人間福祉学部

略歴

2016年、東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科社会福祉学専攻博士前期課程修了。修士（ソーシャルワーク）。2021年、佐久大学人間福祉学部助教。

書籍等

「地域での対人援助における援助空白の意義—地域福祉コーディネーター—活動記録の計量分析—」『社会福祉学評論』21、2020年など



黒澤 大輔

所属

小海町産業建設課商工観光係

略歴

小海町生まれ、小海町育ち。

立命館大学法学部卒業後、県内地方銀行勤務を経て、2006年4月小海町役場入庁。

現在、商工観光振興を担当しつつ、地域づくりに取り組んでいる。



李 省翰

所属

佐久大学 人間福祉学部

略歴

韓国（釜山）生まれ、2009年に来日。

日本福祉大学大学院修了、博士（社会福祉学）。日本福祉大学、同朋大学などの非常勤講師を経て、現職。

現在、高浜市南部まちづくり協議会の協力委員、小海町の地域づくりに携わっている。



佐々木 愛歌

所属

佐久市市民活動サポートセンター
NPO法人長野県NPOセンター

略歴

書籍等



コメンテーター 野口 定久

所属 佐久大学 人間福祉学部



司会 長谷川 武史

所属 佐久大学 人間福祉学部

◆ 20221203_長野県まちづくり・ボランティアフォーラム2022

「大学」から見た「地域」

佐久大学CBL実習での「大学」と「地域」の関係

上西一貴 佐久大学 人間福祉学部
k-jonishi@saku.ac.jp

佐久大学CBL実習の概要

□CBL*実習の目的

- 地域の生活文化に関心を寄せながら、地域のくらしに触れ、住民と継続的な交流をすることで多様な価値観を理解する。

□科目としてのCBL実習

- CBL実習Ⅰ（1年次、必修）
 - ↳ 市内複数の公民館で、学習グループに参加する。
- CBL実習Ⅱ（1年次、選択）
 - ↳ 近隣市町村で2泊3日、フィールドワークを行う。

CBL実習のスケジュール

□CBL実習Ⅰ

- 4-5 月 …事前学習、共通プログラム
- 6-7 月 …学習グループ参加
- 7 月 …報告会

□CBL実習Ⅱ

- 7-8 月 …事前学習
- 9 月 …実習(2泊3日、最終日は現地報告会)
- 10 月 …実習まとめ
- 12 月 …報告会

CBL実習 I の目標

□到達目標

1. 地域(地区)の特性、概要がわかる。
2. 住民との関わりを通じて、地域の生活文化に関心が持てる。
3. 地域(地区)の風土、特有の価値観が理解できる。
4. わが国の公民館の歴史と役割、社会的意義について理解できる。
5. 地域が抱える社会課題について考えられる。
6. 自分自身が地域の生活者であることを自覚できる。

CBL実習 I の様子

□共通プログラム

■ 中央公民館長講話

↳佐久市中央公民館長ほか、各地区公民館の館長による公民館についての講義。

■ 小海線の魅力と歴史講座

↳中込公民館、JR東日本長野支社の協力で、地域資源としての鉄道路線やJRによるまちづくり活動についての講義。

↳社内研修用運転シミュレーター体験や、観光列車の貸し切り見学。



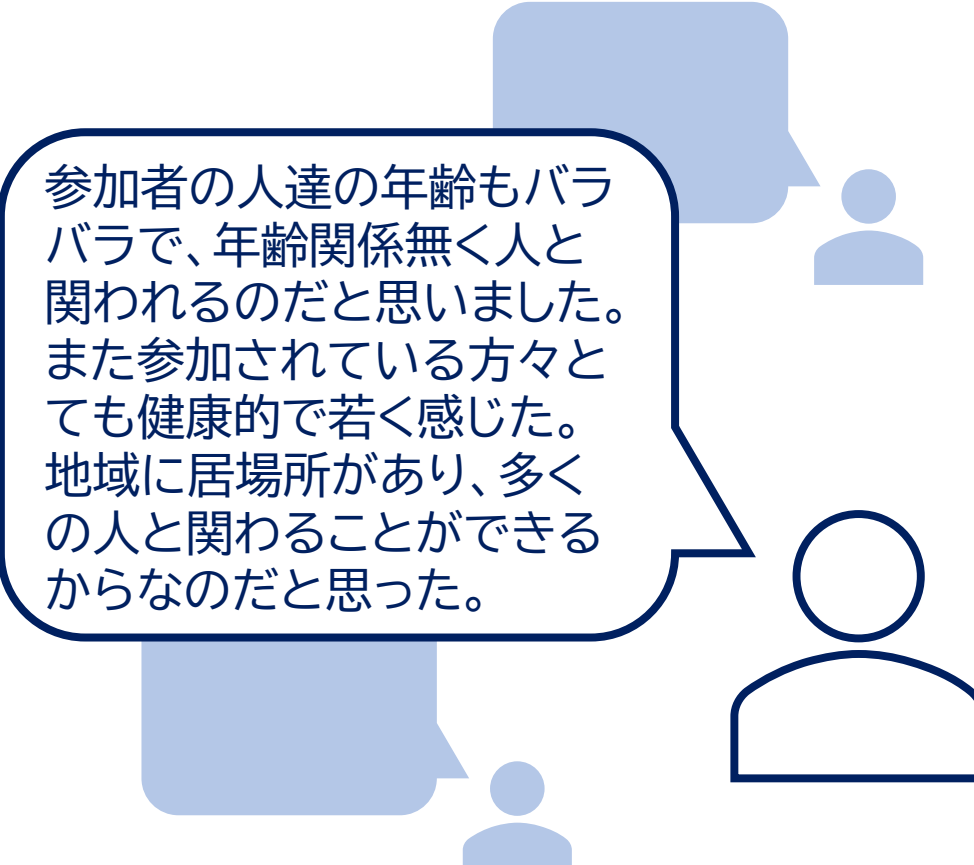
CBL実習 I の様子

□各公民館で学習グループに参加



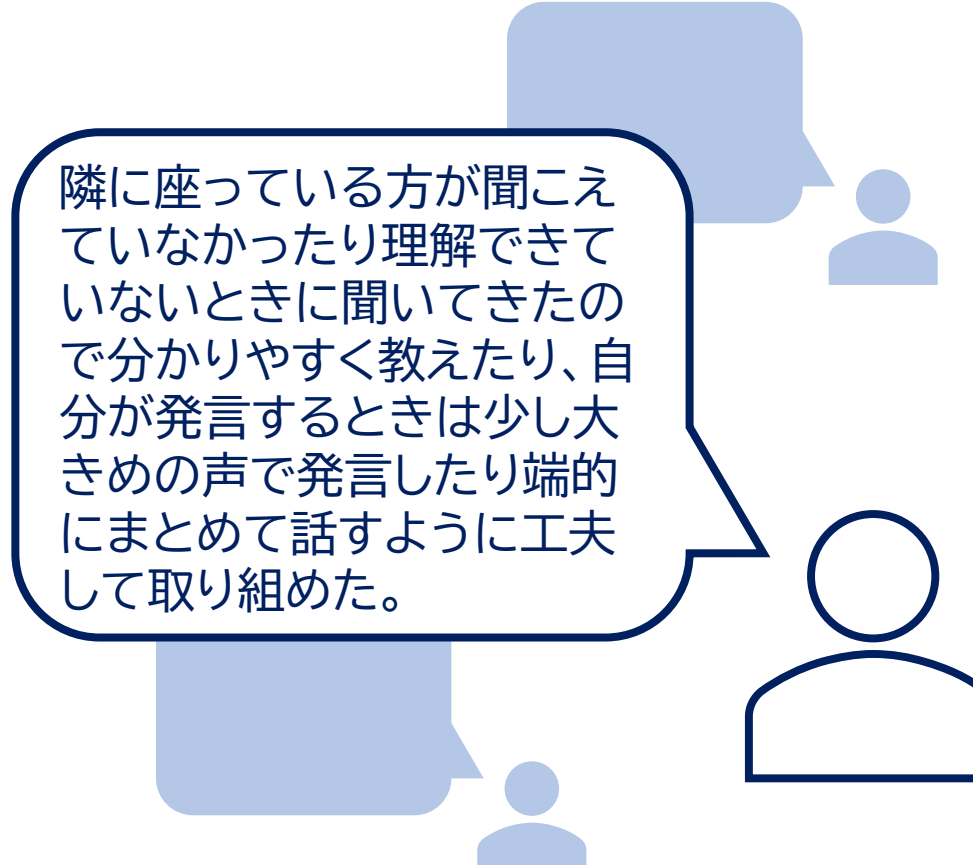
(左:野沢公民館生涯学習手芸、右:中込公民館芽吹き俳句会)

CBL実習 I の学生の声



参加者の人達の年齢もバラバラで、年齢関係無く人と関われるのだと思いました。また参加されている方々とても健康的で若く感じた。地域に居場所があり、多くの人と関わるができるからなのだと思います。

公民館活動についての振り返り



隣に座っている方が聞こえていなかったり理解できていないときに聞いてきたので分かりやすく教えたり、自分が発言するときは少し大きめの声で発言したり端的にまとめて話すように工夫して取り組めた。

自分自身の実習についての振り返り

CBL実習Ⅱの目標

□到達目標

1. 対象地域について、地域(地区)の特性、概要がわかる。
2. 地域での暮らし方や多様な生活文化を理解し、尊重することができる。
3. 地域の社会的つながりや社会課題について、自らの関心を深めることができる。
4. 実習を通して自己課題を設定し、それに対する自己省察・自己評価ができる。

CBL実習Ⅱの様子

口川上村での実習



(左:いちご農家にインタビュー、右:川上村ケーブルテレビの見学)

CBL実習Ⅱの様子

ロ小諸市での実習



(左:小諸市八朔相撲のフィールドワーク、右:現地報告会)

CBL実習Ⅱの様子

〇小海町での実習



(左:農家さんとお話、右:護摩行体験)

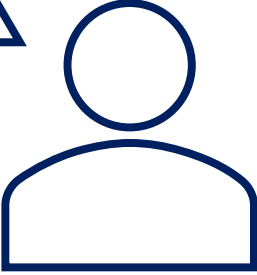
CBL実習Ⅱの様子

□青木村での実習



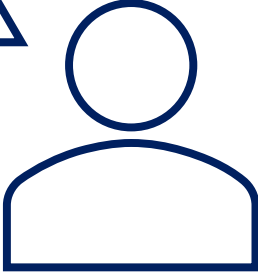
(左:義民太鼓、右:住民の方にインタビュー)

CBL実習Ⅱの学生の声



自分とは違う地域の情報や立場の人と話すことで視野が広がりいろんな面から物事を捉えるための知識がたくと実感しました。

住民との交流についての振り返り



実習初日は質問をして、回答していただいてそれで終わりだったが、実習の中で、会話の中から話題を見つけ、話を発展させられるようになった。

自分自身の実習についての振り返り

「大学」から見た「地域」の魅力

□福祉より先に、まず地域(生活)という視点の獲得

- 「対象者」ではなく生活者であるという視点
- 生活習慣、文化、大切にしていることは多様
- 自分も地域に住む生活者のひとり
- ➔ その後の福祉の実習にもいきってくる

□学生の「ちょっとした」成長

- 知らない人(異文化)とかがかわる
- グループで協働する
- ➔ その後の学生生活にもいきってくる(進路も?)

「大学」から見た「地域」の難しさ

□部外者として受け入れてもらう

- 誰に話を通すべきか
- どのようなルートで話を通すべきか
- ➔ 役所の協力が必要

□地域は大学のためにあるわけではない

- 区長さんの交代
- 忙しい日々の仕事
- ➔ 丁寧な説明が必要

「大学」と「地域」の関係

□開始当初の関係 …(A)

- 地域の方に協力を仰ぐ、教えを乞う

□望ましい関係 …(B)

- お互いに利益がある

□望ましくない関係 …(C)

- 一時的で消費的な利用

└関係Aと関係Cは表裏一体。

➔ 「大学」と「地域」の間に、**継続的で実感を伴う互恵的な関係**(B)を構築していくことが今後の課題

